

やくわえ

年頭に思う

会長 北川 正保

希望にあふれた新春を迎え皇室の御安泰と日本国の御栄をお祈り申し上げます。

昨年十月神宮第六十回式年遷宮が国家的且つ民族的な御盛儀として斎行されました事は我々日本民族の心よりの慶びであります。

願ひて、昨年は政治経済共に波乱に満ちた社会情勢でありました。突然見舞われた外圧にもろくもくずれかけた高度成長は、物質文明にたよりすぎた天罪とも云うべき現象ではないかと思ひます。此に至つて、真の日本人の「心」を取り戻す事は、我々神界の責務であり、特に神道青年は神職としての自覚に立ち行動がなければならぬと思ひます。自己研鑽はもとより、社会に於ける、神職の責務を真剣に考へる「時」であります。

其の事について、本神道青年会にては、一月二十一日(月)神社庁にて教養講座の一環とし「神道青年とし又、次代を荷する若手神職の思いのままを語る会」の場を計画して居ります。会員並びに、先輩諸兄多数の御参加を頂き大いに語り合いたいと思つております。又二月二十四日(日)には山王日枝神社に於いて、東京都氏子青年大会を計画し準備を進めております。氏神様を守る次代の氏子の中心となるべき若者達が一同に会す、この意義ある集いが、氏子青年会を持たぬお社に結成の誘とならん事を願つております。

我々は目的達成の為、一つ一つに全力をかたむけて行動をして行きたいと思ひます。先輩諸兄並びに会員諸君の心からなる御指導ならびに御協力をお願致すと共に、皆々様御社頭の御栄をお祈り申し上げます。

第一次テーマをかりかえつて
副会長 松本 美昭

「第六十回伊勢神宮式年遷宮奉賛活動」のテーマのもとに、これまで幾つかの奉仕活動を実行してまいりました。

不定期便二号



内宮外道の草取り及び清掃、内宮お白石持奉仕、外宮奉仕員、募金活動の奉仕並びに啓蒙、NETテレビ「題名のない音楽会」出演等、この他種々思い出されませんが、色々の運動の中に、二十一年一度の遷宮の儀に、神青年の一人として、精一杯、悔のない努力が出来たのはこの上なき幸と思ひます。

次回は初老、否、中老?であるが、今回の体験を生かし、神職あるべきものの義務として、邁進して行く所存であります。本年二月に遷宮記念として開催される「都氏青大会」の協賛を以つて、第一テーマの区切りとしたいと思ひます。

これまで出来ました事は、神宮司庁、東京大神宮、そして会員諸兄のなみなみならぬ御協力と深く感謝致します。

第二テーマについて

副会長 大島居 信史

本神道青年会のテーマの一つ「過密過疎化した都に於ける神社と、氏子とのつながりについて」のアンケート調査にあたりましては、多くの方々の御理解と御協力を頂き、すでに、五二九社の好成绩を以つて、回収出来ました事を、先づ以つて、心より感謝申し上げます。

その後の分析作業にあたりましては、役員並びに会員有志の御協力を得て、ほぼ終了致し次段階の取りまとめを致しております。

新春を迎えた今より、この分析されたデータに基づき、解説作業更に、編集作業も致さねばなりません。斯様な調査活動は、本会初の試みでもあり、数多くの困難に、当面致しました。が、会員諸兄の御協力により、当初活動の難問も無事乗り越える事が出来ましたが今後行われる作業は、更に難題と思われまじし今回の本課題は、今後推進の上、貴重なる資料となる事と思ひます。

このアンケート結果は、皆様のお手許に配布致さねばなりません。残された数日、尚一層皆様の御協力を迎ぐ次第であります。

東京都氏子青年大会の御案内

教化部長 川合 玄 紘

伊勢神宮第六十回式年遷宮もどここりなく終り、昨年八月十八日、氏青、神青揃つて「お白石持奉仕」に御奉仕させて頂き、その余勢を持って、全氏青協十周年記念大会に移行し、盛大な式典が行なわれました。

昭和三十八年金氏青協が発足して十年、都氏青連が昭和四十三年、明治の森に産ぶ声をあげて五年、まっすぐに立つ竹にたとえれば五年という一つの節、その節から新しい芽を出す時期の考えから、各都内単位氏青会を始め、各神社の敬神青年を集め、氏青活動、組織作りを活性化し、理解を深め、益々の発展と同志諸君の親睦をより一層深めたく、今般「東京都氏子青年大会」を企画致しました。

連絡会発足以来、祖先より受け継がれた、報恩感謝の精神を基調とし、地域社会の奉仕青年活動として又神社界の活動の象徴とし氏青活動を展開しているわけですが、まだまだ都内に於ける組織は、強固なものと言えませんが、志を同じうする敬神青年の熱と意気の盛り上りを結集し、この大会を通して、正しい民族精神の振興をはかりたく、左記の要項により大会を予定致しております。

記

- 一、主催 東京都氏子青年連絡会
- 一、後援 東京都神道青年会
- 一、後援 東京都神社庁
- 一、後援 東京都神社総代会
- 一、月日 昭和四十九年二月二十四日(日)
- 一、時間 午後十二時三十分～四時
- 一、会場 日枝神社
- 一、会費 無料(記念品あり)
- 一、内容 映画「伊勢の遷宮」上映
歌唱指導、日本文化協会 小林良巳先生
- 一、記念講演 衆議員 源田実先生
- 一、雅楽演奏 東京都神道青年会
- 一、参加対象 神職、各神社氏子青年代表 (三名以上) 単位氏青会員
その他本大会趣旨に賛同頂ける方
- 一、申込〆切 昭和四十九年一月末日

「スローガン」 「各社に氏青を」

以上

現代世相を鑑み、資源の獲得、自国経済の繁栄に於て、その荒波は経済大国に列した日本にも毎日の如く押寄せ、そのひずみは、国民精神の上に、大きく動搖を来たしっております。伊勢神宮式年遷宮祭の行われた記念すべき年を迎え「心のふるさと」である氏神様を中心に、敬神崇祖の念に燃え上る氏子青年を、各お社毎に、参加して頂き、国民精神昂揚をよりよく進めると共に、より一層の精進を希う次第であります。

告知板

- △ 一月二十一日(月) 教養講座 「青年神職はいかにあるべきか」などを中心とした話し合い。皆様の熱ある討議をお願い致します。
- △ 建国記念日の前日に恒例の日の丸マツチ配りを行う。二月十日か九日は未定。一人でも多くの会員参加を。
- △ 教養部にては、冬の複練成会を計画中。二月末か三月始めは考慮中ですが、皆さんで実現すべく盛り上げて下さい。
- △ 二月十八日(金) 十九日(土) 神青協中央研修会。場所 寒川神社 全体会議のテーマ 「神青会への要望事項あり方」
- △ 六月十九日、二十日 神青協二十五周年記念大会。場所 伊勢大神宮会館

国学院大学への「要望」に關して

教養部 斎藤直孝

国学院大学創立九十周年記念事業に關し、神社界に募金要請があり、各社ともこれに応じている事、又過日十一月二十六日付「神社新報」一面に記事のあった如く、国学院大学に對し神道青年會が「神道教育の充実」「神道学科の向上」に關しての要望をなし、それに対して一応の回答があつた事は御承知の事と思ふ。

我々は国学院大学が神道学科を設置し神道教育を存している限り、その事業計画には極力応じて行きたいと思ふ。巨額な募金計画を實施し、その大半を神社界にたよる大学當局は、神道学科へ資金を割愛してその充實を図るのには神社界に對して當然の義務ではないのか。また現下の神道学科の困窮している状況から離脱すべく、大学當局に努力實行して、らわねば一体神道教育と神道学科の将来は、どうなるか。との観点より會長、副會長以下今日迄二回国学院大学理事者と交渉し、今回の回答となつてゐる。

大学側には記念事業の計画が既にあり、募金々額は各部門に用入るものであるが、肝腎の神道学科を置き忘れられたのでは、神社界は何の為に寄付したのやらわけもわからぬ。大鳥居神社社長以下立会の上での第一回の交渉の時に明言した如く、神道界は淨財を寄付しており、その金によつてなされた諸事業の結果、軽々しい反神道の輩やら、神腹に

ひとこと

稀にしかないことが不思議に続くことがあります。神育の會員の中に大社の若い神職が多数あります。彼らは会費は納めても神育の活動にはほとんど参加しません。そんな人達と話す機会が不思議に続きました。彼らは一様に言います。「神育は何をしてゐるのか」私は尋ねます。「君はなぜ神育に出ないのか。」そこには民社の神職には分らない事情があるようです。私は思います。彼らは大社の中で神社をそめて神育をどう考へてゐるのかと。

放火するが如き人間を園大内に養育したのでは、神様やその名に於て寄財してくる信者に何と申し訳したら良いのやら言ひ訳も出来ないと思ふのである。それは尻の穴の小さな者の言葉ではなく、使命を負つてゐる者の言葉なのである。

教育は二十年後に成果を顕わして来る。戦後の混乱した教育の結果は今日現れてゐる。早々と氣付いた仏教界等は、各所に宗派の目的とする教育を實施すべく一連の教育機關を設置して運営努力してゐる事は、目を覆つても聴えてくる情報である。我々神道人は今日社界の内で遅れてゐると言われる宗教界の、一番後方に居る事は嫌でも自覚させられる。

新報の記事の結びにある「神職の後進者養成の場として神道学科の教育充實を図るよう大学當局と十分に話し合ひ場を設けて、神社界の意見を述べよう」との要望は、国学院大学と神社界と神道關係の學者との三者協同しての教育建直しを提言してゐるのである。大方の神職も個々の我を棄て去つてこの問題には根本的に取り組まねばならない。一部に言われる如く例え国大と神道学科とを分離してみても、後の方策と指針を失つてしまふだろう。また大学當局も我々の心腹より発する不安と義務感と情熱とを、教育的見地よりくみとつて言葉の末々の事に対するすりかえやごまかしでなく、誠心を以つて共に大切な神道学科を世に誇れる様建直しに尽力せねば、神職の心もやがて園大から離れて行く事を察知して欲しい。それは今日交渉してゐるこの問題をよりじっくりと問をふかすにしかかも熱心に協議し、一歩でも現実の形態に願つてい

人に書いてもらふことにしました。今日の社会状況を見ますと、石油、物価などで大騒ぎであります。そこには偏向マスコミに惑わされてゐるきらいがあります。またあまりにも自先の事にたられ過ぎています。氏子なり崇敬者を指導していく立場として、また日本民族を守る人間として、我々は現状を正しく認識し行動しなければなりません。そのためには講演や討論の機会を数多く作るべきだと思ふ。神社界の事のみならず、大きな見地に立つて社会全般を見るために、広く各界の方々と討論すべきだと思ふ。

十二月五日午後三時過ぎ東京駅を發つ。今年の冬はこの他寒い。まさに冬晴れの日は続いている。多摩川を渡る頃、もう富士山が見える。一路熱海へ。暖海荘へ。神育の忘年会へ。西日を受けて暖かく、雑語を見つめる目は自然に閉じていく。就んでゐるのは「歴史疏本」のお正月特集号。平安時代のお正月の生活が伝わってきます。お正月へ向けて最も忙しい時期に入る十二月初旬の二十数時間、十数名の先輩方を始め、総勢四十人余り。風呂で暖まり、冷たいビールがのどを潤す。料理はよせ鍋、さしみなどどれもいける。舞台では流しの歌手が歌い、芸者が踊る。そして皆さんの歌が太鼓の名調子にのって次々と披露された。「さあどうぞ。いやもう。まだまだ。この間あそこでもいい。：。そんな。え。天皇賞で二十三万円。今日イーグル。すごい。すどくツモがついていたんだ。さあもう少

して。もう飲めません。」二次会は芸者の三味線。ホールではバンドの音ちそしてこは広い広いオレンジ風呂。そんなに飲んで風呂に入つて大丈夫かな。大丈夫さ。それよりも石油がなくて大丈夫だ。ころつとアラブに頭を下げるんだから。國民がバラバラで勝手に動いてゐる。一致団結して耐乏生活をするよりなままとまりがありません。まとめる力となりうるものは、共産主義いや皇室と神社を中心とした愛國の考へ方です。湯船での談議はつきない。熱海の夜は暖かく眠い。ぼくの寝床はどこかなあ。

朝の太陽に海が輝いてゐる。北風が強い。初島も大島もその向こうまで見える。快晴である。頭が重くいかにも飲みすぎ。朝風呂で汗を流し、味噌汁の味がさわやか。一路箱根へ向い、富士山を見る。寒い寒い北風が体の中まで通り抜け、頭も軽くなりました。お昼は若さでも食べましよう。幹事さんお世話になりました。旅は十国峠へ、そして芦の湖へ。

今回の回答は具体的方策が示されず、前進的姿勢を見るに至らぬ。大方の神職に對し無理なく事情を説明してゐるにすぎない。

忘年会で 千村 義和

年末から年始にかけて、全く雨が降らず、空気が乾燥しきつて風邪ひきも多いうちである。われわれは風邪をひくひまもない程、社務に追われ、やっと新年を迎えたのも束の間、またぞろ新年の行事を消化してゆかなければならないのである。

この不定期便は、そんな中で原稿の収集から編集、校正など全く目のまわるようだったらしい。というのも、担当された倉光、千村両君に先日お会いしたとき、疲れたようなきえない顔をしてゐたからである。何せ、新年初会迄という限られた時間までの仕事なので、思ふように運ぶにも原稿が集らず：：といつた調子のものであつた。若い両君ゆえスタミナはまだまだと思ふが、若くもゴクローサマデシタ。(神)

編集後記

昭和四十九年一月十二日発行
東京都神道青年會
東京都港区元赤坂二一三
東京都神社庁内
電話(408)二三六一・九二七七